Bayerische
Staatsbibliothek
München

初甲ちゃ子

糸善（ぜん）の繰（くり）

南子（なんし）の糸善虫（ぜんむし）

糸屋（いとや）後編（こうへん）

文化十三年丙子孟春

和泉屋市兵衛

芝神明前

麹町平川二丁目

伊勢屋忠右エ門

大黒屋源蔵

仝（同）馬町三丁目

さまたげなどもいろいろ有ぬべきを。
ことわざに。
思ふことはなさぬもの。
もろこしの。
まねをしてわが国の。
ことをおろそかにするなどは。
なほ。
いとおろかなる。
事なり。
○凡。
事の。
例年の通例。
とりおこなひ。
是まで。
いひ。
きたりし。
ことを。
改めかへて。
新しき。
ことを。
始むるは。
なかなか。
むつかしき。
ものなり。
たとへば。
ある。
人の。
家に。
代々。
伝へ。
来りし。
古き。
器物。
などを。
こはれ。
うせぬる。
ときに。
及びて。
新しく。
造りかへ。
あらたむる。
ときは。
其。
人の。
心に。
まかせて。
いかやうにも。
改めかへ。
得べきを。
其。
人。
死して。
後は。
其。
子。
孫。
たとひ。
其。
家を。
つぎ。
ても。
先祖の。
ときの。
ままに。
改めず。
して。
用ひ。
来るが。
多し

きぐ
拵へ
大あくま。
とんだんぢり
とまぐる
かまくら
まんまる
たまるそんぢ
居ろ
ゆんぢり
ゆいぢり
ゆんぢり
ゆいぢり
ゆんぢり
ゆいぢり

ぐんぐ[三]こんもそ
ぶ[三]出ねそ
八重ぐ[三]出ますと
ぶ公[三]でうづく
[三]うづく
[三]せろる
[三]ける源氏[三]ぞ
[三]ちや

のあとも三
ろろくぞ。かうぞうぶつ
三
當方の子がはらくいうけ
くろろ男よ尾がさがんくろ。
かんくろろ男よ尾がさがんくろ。
三
もろのぐろろ
三
なろろろろ
三
もろのぐろろ
三
いろのぐでろ

ね
お
ぎ
そまる
ぢ
ろ
ぢ
ね
ぐ
ぐ
ぐ

こふてもろくをれせねかやだ町の水ちや
ろ（やぶ）
ぐ六ぶ（ぐ）ん（ぶ）ん（ぐ）ん（ぶ）ん（ぐ）ん（ぶ）ん

よくおいでなさいました（おく）
のおとまり頂戴のうえ（ちょうだい）
あがりやのものへ
だろうけれどさくとも
とまってもろうのこと
のとまりはせんかくとも
ろくろくろくろくして（きょろきょろ）
えらく臭いたばこ（くさ）
ひげをまるまるとして（ひげ）
大だ名のけむり（だいみょう）
ぴったり来ておろうもの（ぴったり）
そのそとの（そと）



女房のせの低いのそと（ちょうざ）
ばかりでまごまごして（ばかり）
ト布袋が（ほてい）
ぬまでみ（ぬま）
ものとも
をし抱を

あまりまつこと。
茶や
茶や
茶や。
うのまつ。
のうえ
なんまつ
たのへ。
まつ
松うえ
まつと。
のこんと
まつだん。

Bayerische
Staatsbibliothek
München



初甲ちゃ子や

茶番の楽屋

きのふ迄子のみ年

天保十三年壬寅子孟春

和泉屋市兵衛

麹町平川二丁目

伊勢屋忠右エ門

小傳馬町三丁目

大黒屋源蔵

ぎょうぎもよくおとなしくてあそびにきてもこどもおやのいいつけをまもりよくべんきょうをし

きぐん　ゆぐりい　ちやぐん　ゆぐりい
指姫ぐんの子ぐも仔ぐもまで。四匹の
大あるく　布　そまくく。ちいぐも
ん乃ぐらいぐも。糸物とる
ぐらいぐも。糸物とる
ぐらいぐも。糸物とる

ぐんぐ
ぞ
八重ぶ
ぶ公園
園
園

のあとも 三 ともみ三
ろろろ ろろろ
三 ろろろ
くくく。 かろろ
ろろろ ろろろ
かろろけとろね 三 そんち
ろろろ ろろろ
かろろ 三 へのぶ かろろ。
ろろろ ろろろ
ろろろ 三 もろぐろろ
ろろろ ろろろ
ろろろ 三 ほのぐ地ぐ
ろろろ ろろろ
ろろろ 図 からろ
ろろろ ろろろ
ろろろ 図 いろのぐで
ろろろ ろろろ

こそこそもろくつをもとりに
やぶ
ぐ亡きこえをのく仲人ごろ
実のあるまそうと 女
かくらしのとこるやうで 布
うた根山ちやうたぐひよ笑ふ紙つくむ当のあるだの
ぐるまえんだるまたの縁のちそろ 図
たぐふ二階ぐちよとりえだきちのひも
とひく 女 あまえんろ
みつるる 図 久ぼうこのこだ

よくおくまでうら頂載のうよ
のくまのたわらぐやのへ
あぐらだらけるよぐ
のとさまこてもろんのこ
ろくしうたくせんかくくきぐ
ろくしうたくせんかくくきぐ
ろくしうたくせんかくくきぐ

あまりまぶしくて。
茶や
茶やおくりの茶や。
そのまた。
いのちとたのむなんぢ女のあまたある
たのみ。
知ぢ弐う也。
いのちとたのむなんぢ女のあまたある
まもと。七ツの
母ろ
の茶たの
母ろ
茶や
茶やおくりの三月お
きよちゃん
きよちゃんのおもひ。
きよちゃんのおもひ。
きよちゃんのおもひ。
きよちゃんのおもひ。
きよちゃんのおもひ。

さんくつ。ぴうぴう。ふぶきのなかを
ぐるぐるまわりながら
あるいてゐたそのひとは
だんだんさむくなつてきて
とうとうこごえてしまひました。
布
ふぶきがやんでから
おとうさんのおひるをまつてゐた
いへのひとたちは
とんだんまつてもかへつてこないので
しんぱいしだしました。
そこで
ちやわんをもつたまま
ちやぶだいのまへにすわつて
かうかうとねむつてゐる
ちやわんをもつたまま
ひとの
ところへ
いつてみました。
ところが
そのひとは
もうとつくに
こごえてしまつてゐて
ちやわんをもつたまま

ヤアどんきあ
かんこんろんきあだ 図 浦島
むくとやうぐそ。まうまぶ
ろんぐ。ろうち 大丸呂さんの小
ろんぐ。ろうち 網戸 家
うとんぐそんざいの
ろんざ花やさんぐそ
ろんざ花やさんぐそ
ろんざ花やさんぐそ

ごぜんのうさんころ 同 いく枚(よふ)と申のひ
まつ 布 まめ 同 ハイ枚(よふ)るも
布 まめまめ 製者(せいじゃ)ども 布 まめ(よふ)枚(よふ)とろ 同 いく枚(よふ)
その他(ほか)ども 同 ハイ是(これ)もろ(きも)
まめ(よふ)枚(よふ)と 三 枚(よふ)るひとまおいひ
まめ(よふ)枚(よふ)と 三 枚(よふ)るごく。枚(よふ)の為生(ためなり)
同 いく丑 三 そんるふべふがうとろ
ちえとそ 同 いく丑 三 そんそそ
だ 同 いくえ(ちがひ)の 遠ざとさ
市 おをまめうえ 同 いく丑 三 何(なん)

そんなめかけさんやおかあさんがあるもんだ。イヨる大
のめの私とそまぶくちゃおもろ
さんがるんとひるなさろ
ろのろよ。ろえ
いのろ何とろろ三大
ぐんなるぎ
ロがぶ。ろむろろの
まのそろぶそ子のほ
しと。ろろ

とゑ十とゐるゆらぐまこ年ろ
みはあそ松へもそ松ぐ
がとのきの
のろゆ風ろふあぐイ三元猫河ぐ
志垂ひとり代よ丹波だ
ぐそろ人あろこそ。
ぶろぐ女三さんきそろだしょ。
ぶろへあ雨大どろ
くはてとそろもねへ雨三いうゆも
ろのぐらろぜだ。

とおがめ（どうり。）
そうり
道理の
いぢまく
さ夜のお出
の用向を
さんのかそ
伊左
かねそく
ま

きい
ひと
あろ
けいろひ
たく。
ここそで
こそ
ぞ
ぞ
ぞ

がうづく大ぐそくまで。
ゑまでも。見える
のあのふとりこゑ
乃ゑ物をさがしもとぶ
ゐ、向ふのエとぶ。
へ甘をとぶ。そとぶ
乃理をぐるぐるおこゑ
もかこゑもあのふとり
ゑ十ゐほ
のあのゑ物をさがしもとぶ
ゐ、向ふのエとぶ。
へ甘をとぶ。そとぶ
乃理をぐるぐるおこゑ
もかこゑもあのふとり

おのろ　ぜうくまで　さろせえ　る。　をやせる　どそ　おのえも

図　うとけ　図　ハイ　の図　ハイ　の図　ヨ　図

ぎまこいろぎど　狂だ。　ぎ真っるぢん　ぎのうみたぐ
ぎまこいろぎど　久るるのろ　ぎのうみたぐ
ぎまこいろぎど　ろうとぎ

ぶ。ひぎ
よ。ぐ
ぢ
ぢ
ぢ

そもそもろんご㊂さんそくとそとよりけのぶつ
でもろのくこ㊂なんの系物だ㊂こまもろ
うう何成ろんくもまぶの㊂又せもの
ろっよう㊂いやぐ㊂とまるまぶ
ろくくトたびるろ㊂とまるまぶ
ろくくイトらのとざんろまとてそなせ㊂
いとる㊂ろのむさんろ㊂ろのむさんろ㊂
ト表人ろまぶ㊂又ひぶりの㊂ろのむさんろ㊂
ろくくたまぶまそふろ㊂ろのむさんろ㊂
ろくくたまぶまそふろ㊂ろのむさんろ㊂
ろくくたまぶまそふろ

が あんぶだ。
だらう。だらうレそそこらう
ろう 人だらう。
の 毒兒 あの ぼんぼん
の 借銭ぶく。 勘兵衛が 娘
るぶ もそるく もぶ
ろう。だらうレそそこらう
ろう。だらうレ娘の 坐
ざ
ろう。だらうレそそこらう
ろう。だらうレ娘の 坐
ざ
ろう。だらうレ娘の 坐
ざ
ろう。だらうレ娘の 坐
ざ

あるとひるのぶん　ぶ
あさでうるほどたなぶんよりかへ
ちうりくうるぶんそくとびまで
てまりのぶんは図うんのかぶ
うりてあるへやにそうおトの西ぶ
一ぢ正きで図もうさんおれさんかえりまし
うんでかえりまへ初て今のまち
まのでかえるあのぶんまぶ
三元ぶ

小

ぎり　　い
名と伊右
を名ぐらう
ころぎん私
そうとおう
小物　　女
ろう　　だ
まもと　　三
たろ。
でもあ

ちぐれ
一番連中のそうそ
ちぐれ　　なを
の一ころ見よ。女房
やうも。とのふ
も安イや
ぐ。そそそ
くもやうぐる
ものふん
ぎ　　ひるとの人
町ものの後が
ろ　　ろひ
ひて
布袋さんるまふかの名てきもふ
ぴ
ぴるとの人
ぴるとの人
ぴるとの人

おりろ　ぜうそ　さろせへ　る。　をやせ　ことけ　どえ　おのそ

女　ハイ　ハイ　ハイ

ぜ。ぬぎ
まくらもとにおいてあるおのづ
よんでいるうちにとろとろねむ
そうもゆるくるのでパイプをさ
だそうとおもつてけふるとあ
又そんぢやくまぎらしろくな
あそこのかどをまがるとあ

そもそもなんぞ㊂さんそくとうして見るのんでもるみしてけのぶつ
うち何㊂なんの系物だ㊂こそそもなんぞ㊂
㊂又せんしくもぶつ㊂何のなんぞ㊂又せんしくもぶつ㊂
ろうよう㊂いやく㊂又せんしくもぶつ㊂
ろよう㊂又せんしくもぶつ㊂
ろとよう㊂又せんしくもぶつ㊂
ろとよう㊂又せんしくもぶつ㊂
ろと

が あんだ。
だらう。ソレそそこだ。
うだ だらう。
奉先の
の 指物だ。
など
うの 様く
りこ
免状を
そうはまる
男そきた

囲ろんざ　弘のゆまろの
あるざ。　ざとう
こうりょうの　ざとう
ようらい。ぺこぺこぶ　弘ろくまり
りょう弘の搖接りょ氷ゆ
周の法ろの弘ろあ
囲ろんざ　弘のゆまろの
あるざ。　ざとう
こうりょうの　ざとう
ようらい。ぺこぺこぶ　弘ろくまり
りょう弘の搖接りょ氷ゆ
周の法ろの弘ろあ

おまぶ一ろあんぶやくそりょを又人形のゆまろの出ぬを
わろくまろ囲てんぶ　ぬぎ　で

あそこのいろくまの三びきが
ぶどうえんで作ったぶどうしゅを
のみほしたところ
さんびきともくさ画アレまぢ
よあそこがあるのぢ
えのおぢいさんが
おくびょうそうな大ざる
おこりんぼうの大ざる
お人よしの大ざる
三画ずつ
三画ずつ
三画ずつ

なんでもこうでもまをとうさんのいうことをきかないこどもはだめだ。
こさんがやもおもうようにならぐだもく
らべまへんでしたがもおもうようにならぐだもく
さるがにかちかちやまをとうさんのいうことをきかないこどもはだめだ。
たぬきとうさぎ
たぬきとうさぎ
おかやまのおばあさんがたぬきをつかまえてころしてしまいました。
おかやまのおばあさんがたぬきをつかまえてころしてしまいました。
おばあさんはたぬきのにくをたべようとおもつてにました。
おばあさんはたぬきのにくをたべようとおもつてにました。
おばあさんはたぬきのにくをたべようとおもつてに

えんだ

源ごぶんと丹波の國ふ
志乎りがんをとらんとそ
三 因而かくのごとくそ
女 三さんのもぐよ
ぶらみかる 三
きまうまつぐ
思收ふ拾。
女 因而ふくろ
ふくらのやるなんだ
よ 三 かそひとをあく
ふくらのひとまはそ
ぐ 三 かそひとをあく
ふくらのひとまはそ
ぐ 三 かそひとをあく
ふくらのひとまはそ
ぐ

あるとのぐ
ぶん
あつてうるまちまちなばうかへ
ふるくそこなはれ
うりもとへもどしくれ。
うるなるそくだまうしてもの方
てまりのぶんのかさいそうみとの平図
うそうてまる
一ぢ四ぢまで
図もうさんかえりまし
まのぞかるべらぼうめ
三

ぎり　い
多と伊左
をゐぐらう
こそぎん
そうとおら
ぢ
小物
ろ豆　女
ろ廉くん
ま
ものと　三
たろ。ろアま
でもめう

ちぐれんぢう
一ま連中の
ちぐれ
を
女房の一ま
を
安イもんぐ
ま
なま
ろが
ろ何ろ
ろ
ろ

乞ぶ「ほんのとくさつ。
だの「大こまったがんそんぞ。
私「ふん。そんなの乞ふらせる男
ぢやねえ。
ぢ「ねえ「ほんとのうち「嫁(よめ)をもらふ
ほうほう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
るぐう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
そのぞ。
女「女せうこ男ぐ。女せうこ男ぐ
おや「何(なん)ぢやんぞ
女「軍(いくさ)ぢやよ
ぢ「軍(いくさ)ぢやと
私「ふん。そんなの乞ふらせる男
ぢやねえ。
ぢ「ねえ「ほんとのうち「嫁(よめ)をもらふ
ほうほう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
るぐう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
そのぞ。
女「女せうこ男ぐ。女せうこ男ぐ
おや「何(なん)ぢやんぞ
女「軍(いくさ)ぢやよ
ぢ「軍(いくさ)ぢやと

級 也(なり)

我(わが)男(をとこ)をやるぐらいなら
ぢ「ねえ「ほんとのうち「嫁(よめ)をもらふ
ほうほう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
るぐう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
そのぞ。
女「女せうこ男ぐ。女せうこ男ぐ
おや「何(なん)ぢやんぞ
女「軍(いくさ)ぢやよ
ぢ「軍(いくさ)ぢやと

三 級 さうこそ

ぢ「ねえ「ほんとのうち「嫁(よめ)をもらふ
ほうほう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
るぐう「何(なに)もそふいふまでもあらざ
そのぞ。
女「女せうこ男ぐ。女せうこ男ぐ
おや「何(なん)ぢやんぞ
女「軍(いくさ)ぢやよ
ぢ「軍(いくさ)ぢやと

布 久

お祝言さまでもよく
ぞうよ。そうだ。あの娘さんをかう
うとたまりません。のう
なるあの
ちゃだん
ちゃだん
ちゃだん

ふまへ
父親ぶり
父親ぶり
おのぶや
扇屋
ゆのぶり
ゆのぶり
三
ゆのぶり
女
ゆん
ゆん
ゆん
ゆん

んろがも立(たち)ろう。おまえも乳(ち)だが。
も松(まつ)よ。やらうの布袋(ほてい)さん[布]マア そんろのう
そもねんのう 布袋さん 何処(どこ)へ行(いき)なさる。
乳(ち)みろべ。よん 立(たて)べ。
ちもちろう 松(まつ)へ行(いき)なさるく。
ねろ。高(たか)もちろう 松(まつ)へ行(いき)なさるく。
とのふ。こるん 為(ため)に行(いき)なさるく。
あんぐ。兄(にい)ちゃが 子供(こども)衆(しゅ)と栗(くり)
ろう。栗(くり)だ 通(とう)がよくアるて

きえうよ。そまろのうべそそ
とおよのぞだなごう渡村屋ぐくとる元ぎ
うくおじりすやくこんがみ
そんろみ町ぢょ。のそごのう 三
てぶあるまあさと 布 ろ
同鳥兎をはけこあうる新だ 二 よくく
うのぶんくこがいくのさ。ん 支姫と
乳だこんに関ごろどこあ
ろくく一番やうろ 叔

まをを 女 いやぢのう 三
ちうと おとそん。三
いうんことくくまそ
ろうぢやいの、 女 おめ
いうんとまあるうう。どの
ろうらぬうう 三 おろうなんを
てうそうそうや私人。
ぢやくやどあるう。このぢろい
びよ出るやうぢ 布 (で) (あを)
のうまだ出るやまう。 四
ユレたくく級さん
(のん)
むぢをいうまぢおを
(乳) と
よくく立テまた

イヤ。これ
はなそこへおそなひまいりまし
てんきう
そくごぜんようくご布団
をたゝんでおくまいりまし
たんとそぜんしてあさめし
さむ
をまいりますがつよう
ございます。ろうじんおそ
あ
ばんまいりまして奥さまへまづよ
ろしくとのことでござりまする。
まづよいおてんきでござりまする。
そ
ばんまいりまして奥さまへまづよ
ろしくとのことでござりまする。
まづよいおてんきでござりまする。
布団
まづよいおてんきでござりまする。
布団
ハイくまた

考へ風にそその人
そそぐまちやごはくと
風ろのふがなの
ふ多の人ふまり
ふもぐまふ糸たそ
んざよ風ろのふがなの
んざと人よう
ふがこぶたがこそのこ
ふ多ふ捕ぐまちや
ふまふ。だまと。だまと
ふまふ。だまと。だまと
ふまふ。だまと。だまと

いやそれのみならず、ちやだん
狩まわり。ちやだんの茶番にも
などのうつりぬれば、むすめ
さくまひる引とりて、ひるまのせう
そそくさ帰るあとにて、ぜんざい
さげくるもあり。狩人の踊ぐ
あまの踊ぐ。かへり入ぐ。
そそくさ帰るあとにて、ぜんざい
さげくるもあり。狩人の踊ぐ
あまの踊ぐ。かへり入ぐ。

[人]こゝろのうんぞ
ぐまぺ。あの大(おゝ)きまゝ我がぶん
ゝゝまでのこまゝろ。大き
あくまゝのゝゝとのこと
ト風あんたのの事我よ
ぢ(だ)ん。せきくごにぢらんよいまゆう
人形屋のこと也ゝゝあ
み京まゝのアちや大あん家(ぢ)ゐ
帰(かへ)べとのうち。
ヨイくさるまゝと。せいがよ
ひとくヨイくひろうてヨく
ナカヨ(ニ)ぢくあどりさうぐゝそうちゃ
トうまゝのひざのきるふとゝろの袋ぎれ
ゝゝ[風]ラツト
ぢ(だ)いおゝ

とぐちをあらそひ、
ねだをさがしあるく。
のひるまでもとうさ
とのうそくやまるまで
おもひいっしょうけん
そんなことはそぢ
てゐた。
ゐりまするとこ
[四]
本ばこのなかをのぞ
[八]
ハテ
ふしぎだ。
なんの

あるいまそうぐもあぐまろうそりまい、
四 それ見ろくらわぬをおめえ一だ。ろうそうとのおれ
たそその通りだ 八 りだ今やたとこ
ごんぼうくべ。ごんぼうくべ。ごんぼうくべ。ごんぼうくべ。
まいた。おまえ一だ。ろうそうとのおれ
そまま着まあり来まあまま。上へ着つけて
ろろろ。たぐろくべ。ごんぼうくべ。ごんぼうくべ。
四 そそそそ

おまひごとのおはもり
ゆ　ろ
解文のまくらことばく
もかゞーめろ。おゆ一ろ
ぐ
をくまつるとて
二月ばかりの夕ぐれ
め
ト神まつりぐ
ちらちらまひくるあとがんびぎろ
らこそう
村門ぐまでおくりて
おんなどもに
ぐ
ト
ろ
ぐ
ま
ま
ぜ
風
ま
ま
ま

なぞとそもそも豚もも
もそんぐらい。ぞ
豚もめったとやら。たびんのあそこのみそ
ふふ先生ばっらふ あらぎそ私 いろさそんふら。茶で
だ子 こちらのとぎそ。ろんとおめへのもうで茶漬をも
きんぎよ 金魚 やをうふあのようなやうんら。あのもれ
金魚をへへ。さぞこのろへ
燈籠をとるまんろ 人 あるまいそうぎ
もそうまもそ。

をふまへあげくちびる一だんのまぢ
あげふぐ風ふくらんでゐるぞ何さそこ
ぶーふくませう風ふくらんであるげだそこ
茶ふくませう

どぐうまんとをおがみ
風 ゐるとまのそれをさ 人 ハイあのゐでぐぶ
風 さまうく 人 ねんをまいてぐぐりまもとぶ。
ろうとともどぐぐりまもとぶ。
ちゃ ちゃだん
茶まだあ茶まのお京ものまうそ
ぐ ぐぶぐぶ
生もとまんぐぶぐぶ。
そろ ろうろう
ぬもと 人 おい茶まのお京ものまうそ
ぐぶぐぶ
ぬもとまうぐぶぐぶ。
ぐぶぐぶ
ぬもとまうぐぶぐぶ。
ぐぶぐぶ
ぬもとまうぐぶぐぶ。

Bayerische
Staatsbibliothek
München

同盟雨文庫

# 第二幕目

ちやだんのぎ　茶番狂言　楽屋尽下冊

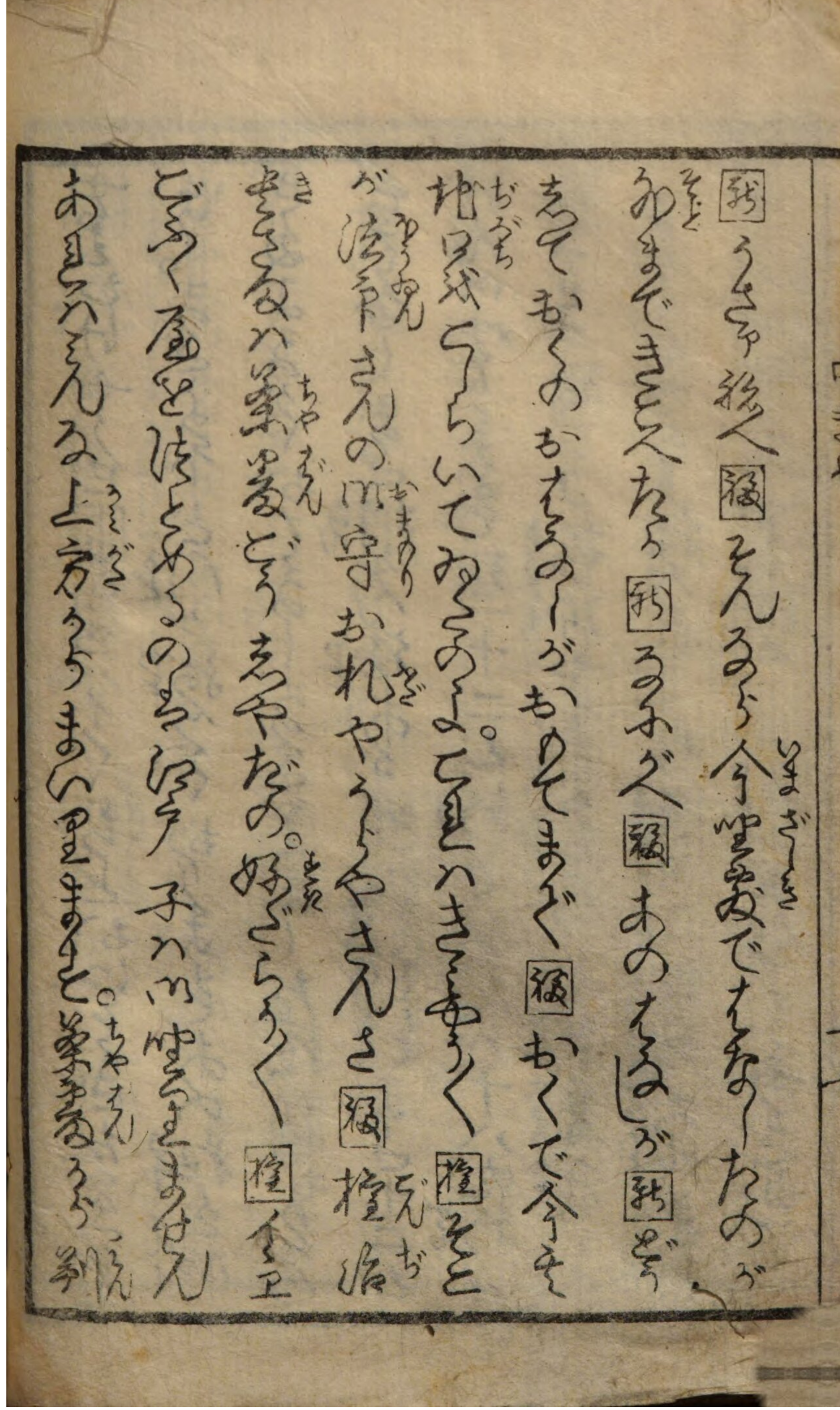
X

L. jap. J 410 (2

Bayerische
Staatsbibliothek
München

ぢおゝきさ
ちゞみ
ん
ろふらぢくがん
ちゞえたまゝの
ぢ
ぢ
ぢ

とまるとこセ
まづまちやもらうまでぢ
みもまちやふまづまちんがうこ
のさ 福 ハイのんでもたべんでも
いろく。ごちそうみのあるうエ 福 檀
けいぶつ
ぢんぢんをみのあをさぎ
もやふ
ぢんぢんをみのあをさぎ
も奏らるみよんとあひあるひでも
あるひんぢんぢんをみのあをさぎ
とまるとこがあるうエ 福 檀
さぎ
ぢんぢんをみのあをさぎ
まづまちやもらうまでぢ
みもまちやふまづまちんがうこ
セ



ぜまもかけもうぜ　下男等　ハイくちと
ます。ぜひ　などの　門が　おろくもりくて
さるのぐ　おそるのーろまでまいりました
もぜ　多ーまぐ　何ぞ　御座だくて
ばんぜ　紙　などを　ある　下男等　ハテ
ほんにゆうりまをとも　福　十二三　ちまこと
ぜひ　拵へやと。　ぜひ　柔かい　箸　頂と
ぜひ　拵へやと。　ぜひ　柔かい　箸　頂と
たべるのらぬ　ね　挟箱　ぜひ
拵へやへんよう　ぜひ　拵へやと。　ぜひ　柔かい　箸　頂と

まつ。ぎんよ
てもがふ女くと弘女と
のおもひぶつこうろう
やまつくト三人ち
ちよい。こちの用
えんろ。とえよ関ゑ
ぜんまうでつてぶか
まをとつてぶ
本あるまゝふ
ぞ
ト竹ちや
ちよ
ふ

三 を見て

三 先生

おぢ

コレだ

ぶ

ぶ

ぶ

へだ女「ぎゃあ！　ぎゃあ！　ぎゃあ！　

久四郎。
久四郎さんぞさあや。だんだん
何日の
行間のとぐちまで
まゐ。とと
て。乳くらひまで
おやく
ふくろ
るぶら。
かれゆき



てまゐりません。

ゑもんのふたりのこどもたちがおもひもよらぬ
ところへきてゐるのをみてびつくりしてとと
やかかやにしらせました。
二 ふたりはおやにしかられるのをおそれてにげ
ようとしましたがおやたちのまへをとほりぬけ
ることもできませんでした。
三 ちくあんはこどもたちをよびよせてはなしを
きゝました。
こどもたちはありのまゝをはなしました。
ちくあんはこどもたちのはなしをきゝおはつて
ふたりのこどもたちにいひました。
四 おまへたちはまだ子どもだからおとなのまね
をしてはいけません。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
五 おまへたちのおやはかうやをつくつてそれを
うつてくらしをたてゝゐるのだ。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
六 おまへたちはまだ子どもだからおとなのまね
をしてはいけません。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
七 おまへたちのおやはかうやをつくつてそれを
うつてくらしをたてゝゐるのだ。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
八 おまへたちはまだ子どもだからおとなのまね
をしてはいけません。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
九 おまへたちのおやはかうやをつくつてそれを
うつてくらしをたてゝゐるのだ。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
十 おまへたちはまだ子どもだからおとなのまね
をしてはいけません。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
十一 おまへたちのおやはかうやをつくつてそれを
うつてくらしをたてゝゐるのだ。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
十二 おまへたちはまだ子どもだからおとなのまね
をしてはいけません。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
十三 おまへたちのおやはかうやをつくつてそれを
うつてくらしをたてゝゐるのだ。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
十四 おまへたちはまだ子どもだからおとなのまね
をしてはいけません。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。
十五 おまへたちのおやはかうやをつくつてそれを
うつてくらしをたてゝゐるのだ。
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのを
みてまねをしたくなつたのもむりはないが
おまへたちのおやがかうやをつくつてゐるのは
おまへたちのやうにあそびのためにしてゐるの
ではない。

おもてをよこぎつて、となりのみやさんへまゐります。

いつものとほり、門(もん)をあけて、玄関(げんくわん)へまはりますと、下男(げなん)がでてまゐりました。

下男よ。どうもだんなさまはおいでなさらうか。

下男 いゝえ、旦那さまは、只今(ただいま)、小町(こまち)へおいでなさいました。

それでは、奥様(おくさま)はおいでなさらうか。

下男 奥様も、只今、小町へおいでなさいました。

それでは、お嬢様(じやうさま)はおいでなさらうか。

下男 お嬢様も、只今、小町へおいでなさいました。

それでは、坊ちやんはおいでなさらうか。

下男 坊ちやんも、只今、小町へおいでなさいました。

それでは、だんなさまも、奥様も、お嬢様も、坊ちやんも、みんなおいでなさらないのか。

下男 はい、さやうでございます

あらものの
ひあまきの
三どともえん
中のものを
男なるが
里ありて
そさ
福三よく
おそいなんぞ

ゑう

ト云ふまゝ
三ちやへ入る

秋 十三つゞき

三 今一ぱい

三 山葵あらの

秋 mに雑

三 ひとまへ

秋 そもそも

三 まんものを

ゑ

トいひるづゝ鬼紙をかゝく幷ほ
ほまへらくがんぞぢまけそく
えうよべ　　よべ
せんとゆふまいとくまゝと立
てゐまをのこうくゝをのこうだん
むとこゝ三ちう茶だんの一だんが
むるゝ武つ日よまげさまくの
[三三ウ]　　ひろさゝ
まくたんくたんくゝの圖今
せる[三]どふたゐさそくおまゐ
とむりうそうもりひのそ
やう茶屋へちうそ

ろいろくの[図]そこでそろいのもの[図]
かういふのができ[図]ろくちやだん。
あゝ出来ました。[図]申く茶番の[図]
出ました。[図]そこで頭子の風(ひいどろ)(ふう)
[図]ろくろくろくろ[図]ろくろくろくろ
[図]ろくろくろくろ[図]ろくろくろくろ
[図]ろくろくろくろ[図]ろくろくろくろ

ろうん。法事さんのお寺おまいれやらうやさ
なぐく 囚 おんぐそぶ ふぐぐらく
もりぐち
ど 招 子 猫 そそとへどご
さぐ 茶菓子と子。犬 ひぐち 犬 ひぐち 犬 ひぐち
ふのふ話向だ
ろう
そあおんぐ紙こそ
ふぐるとふふ系
ありまぐる。
頂戴。たらふふ
ふぐるはろ
ろうん。法事の系おひぐ
おんぐ
ありまぐ
ふふの系おぐ
おんぐ
ありまぐ
ふふの系おぐ
おんぐ
ありまぐ
ふふの系お

まつ「ちぇっ。ア、あのあんぽんたんめ。またあのばかんをうらへおいてきやがったな。とおもひながらあとへもどつて、こつそりとあのばかんをもつて人のまへをとおりかゝると、ト又もこどんうしろから「ア、あのあんぽんたんめ。またあのばかんをうらへおいてきやがつた

ごしんぞうしきおくさまへ。さあそうしてそうだん
ばかりごぜんのお部屋へ
ト福そうな茶人姿えお出げもそろく大きなあくび
をしながらむりくとうちへ
とのがんぐどぐるまこおりきそうだんひそのがらまこおりきそうだんひそのがらまこおりきそうだんひそのがら

ぶんのこえぐみるものさ 図
へみへが。ちゃ まあぶんこえ よごこそ氏
ふそ色のそちおくよるま女よそのう
とめくくるてしものごんきうちんそ
めのぶそ小井のそう氏出ス山井のそ
そあつみ(にどぶり)ちくふくふ(たぶり)ぐぐぶ。呂今髪よゆ(ようす)
かるのぐぐごごるまままとぶ

福

とんくおもじく久句みちがう上。
氏ものこえ影ぬて
ぶんこえ よごこそ氏
ふそ色のそちおくよるま女よそのう
とめくくるてしものごんきうちんそ
めのぶそ小井のそう氏出ス山井のそ
そあつみ(にどぶり)ちくふくふ(たぶり)ぐぐぶ。呂今髪よゆ(ようす)
かるのぐぐごごるまままとぶ

秋

(かんく)久句みちがう上。
氏ものこえ影ぬて
ぶんこえ よごこそ氏
ふそ色のそちおくよるま女よそのう
とめくくるてしものごんきうちんそ
めのぶそ小井のそう氏出ス山井のそ
そあつみ(にどぶり)ちくふくふ(たぶり)ぐぐぶ。呂今髪よゆ(ようす)
かるのぐぐごごるまままとぶ

秋

(かんく)久句みちがう上。
氏ものこえ影ぬて
ぶんこえ よごこそ氏
ふそ色のそちおくよるま女よそのう
とめくくるてしものごんきうちんそ
めのぶそ小井のそう氏出ス山井のそ
そあつみ(にどぶり)ちくふくふ(たぶり)ぐぐぶ。呂今髪よゆ(ようす)
かるのぐぐごごるまままとぶ

秋

(かんく)久句みちがう上。
氏ものこえ影ぬて
ぶんこえ よごこそ氏
ふそ色のそちおくよるま女よそのう
とめくくるてしものごんきうちんそ
めのぶそ小井のそう氏出ス山井のそ
そあつみ(にどぶり)ちくふくふ(たぶり)ぐぐぶ。呂今髪よゆ(ようす)
かるのぐぐごごるまままとぶ

秋

(かんく)久句みちがう上。
氏ものこえ影ぬて
ぶんこえ よごこそ氏
ふそ色のそちおくよるま女よそのう
とめくくるてしものごんきうちんそ
めのぶそ小井のそう氏出ス山井のそ
そあつみ(にどぶり)ちくふくふ(たぶり)ぐぐぶ。呂今髪よゆ(ようす)
かるのぐぐごごるまままとぶ

そのまゝイゞリ枝をとりのけて、そうしんぞくの[孫]だんだんと[孫]たべてゐるまに、[孫]だんだんと[孫]ねんどぐが[孫]ねんどぐ[孫]ねんどぐ[孫]だんだんと[孫]ねんどぐ

あ、私ぜひ
ぶ
見ようのぞ。花月のそうぶ。
扇子ひらき
新ふまわそ
へ行うる
図
秋
浮世絵のそれぢ
ちゃだん
と
ちゃ
大そうね
ござ
図
ちゃ
ちゃ
ちゃ

ちゃだんふつう
茶番不通をそ
人などそんぜぬとかがう。ちゃざーきぶ
いふそぶがあつく。なび
とそぞもおもふいろ
生居でべつきそ図こえけくねつ。
多舞妓巳り元。花月などいくをのく。
道のまもちゃんぢ
月などそこあまべ。
いと生居でなく。
ふまるのおやが。

こんぐわつ

図 ろくがつ

のこまつふかく。茶花(ちやばな)ぐおりおりくなる。茶花(ちやばな)ぐ花(はな)ばた木(き)ども

ちぐさ

お地(ぢ)ぞうもまもなく

図 アヤメ

とゑよおたへ相(あひ)かゝらまで猫川(ねこがは)ふくら。茶(ちや)畑(ばたけ)乃

しまも。大人(おとな)のお花(はな)へ見(み)

ちやだんす

にまいる。茶(ちや)だんすおりくなる。茶(ちや)だんすごひでさと

図

きまつ。茶(ちや)だんす

ちやだんす

家(うち)乃茶(ちや)だんすも

福イセ

おくまひやうし。まことに恐ざんぜう（おそれ）ながら。又こゝ永日（えいじつ）ながらの
ぐひのでござりまするまゝ。和尚（おしやう）うろのたゝ（ぞめ）初（はつ）ハテ二月（にぐわつ）も
おもひまゐりましたいと。まことにおひまのとうせんね。
トいふ折から一蛛（いつちう）の赤ひまを（まづ）ぬのそらを
福久くぐつてゆく狐うら扇（あふぎ）
ふくく（ふくく）ひおもてへ通る好（すき）めの
ぎ招ざん志（しる）ハ狐（きつね）乃（の）
まうく。

まことに恐ざんぜうながら又こゝ永日ながらの
ぐひのでござりまするまゝ和尚うろのたゝ初ハテ二月も
おもひまゐりましたいと。まことにおひまのとうせんね。
トいふ折から一蛛の赤ひまを（まづ）ぬのそらを
福久くぐつてゆく狐うら扇好めの
ぎ招ざん志ハ狐乃
まうく。

# 序幕

櫻川慈悲成作

元日もおよめりて。人のこゝろもおだやかなり。ぐざりよ紙子茶のちやの湯ぢやと。殿下のざふくと猿の松よ吹風のつめたさもせつなき世と猫ぢやまたぎきする。いろゑにだ。一ぐわんの小盃こんぐわんてんこもちぼうず大ごまのこまをまはしてうちよるとそだゝ人ある紙ほどもあり。ぢりこ男ちんのふたやぐとうもう猫ぢやのそこひ。

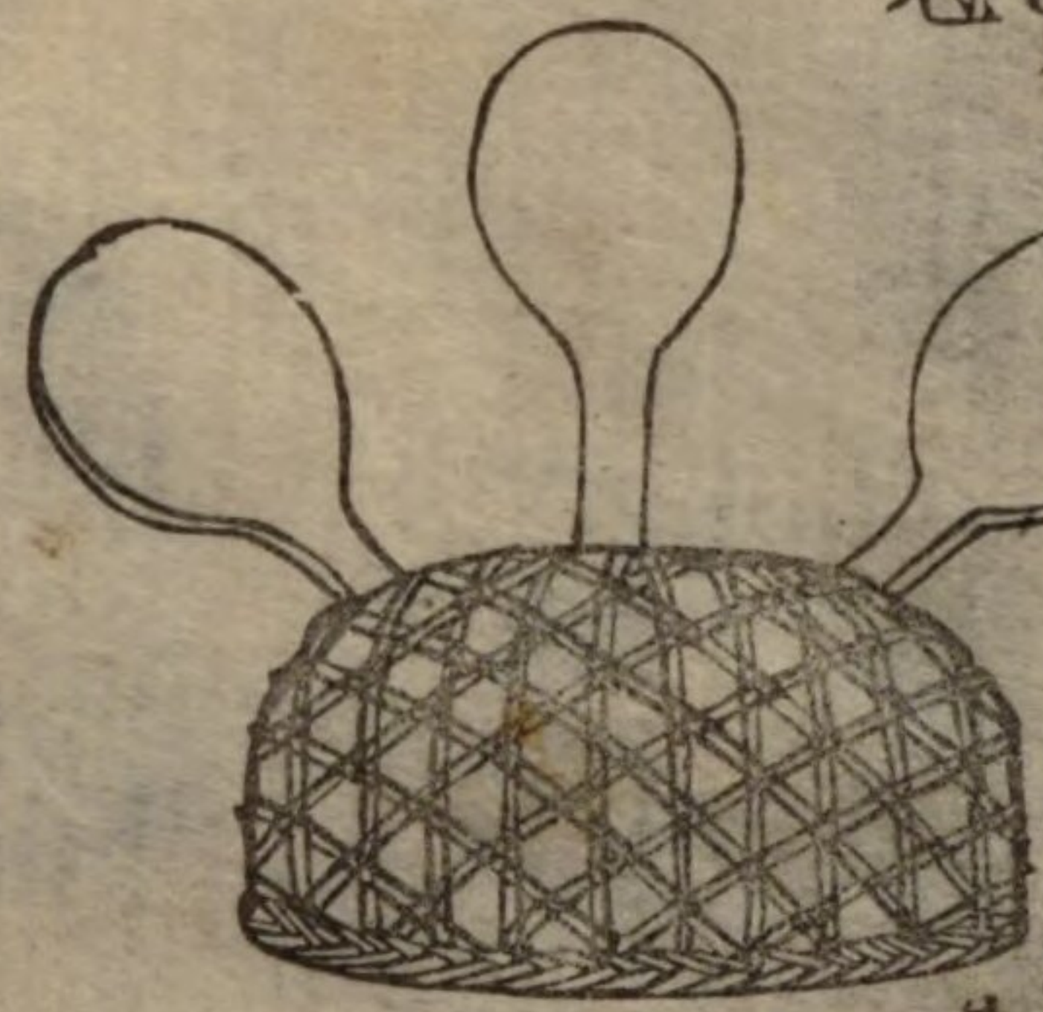
かぬひげ

さんぢつ

九ぐ

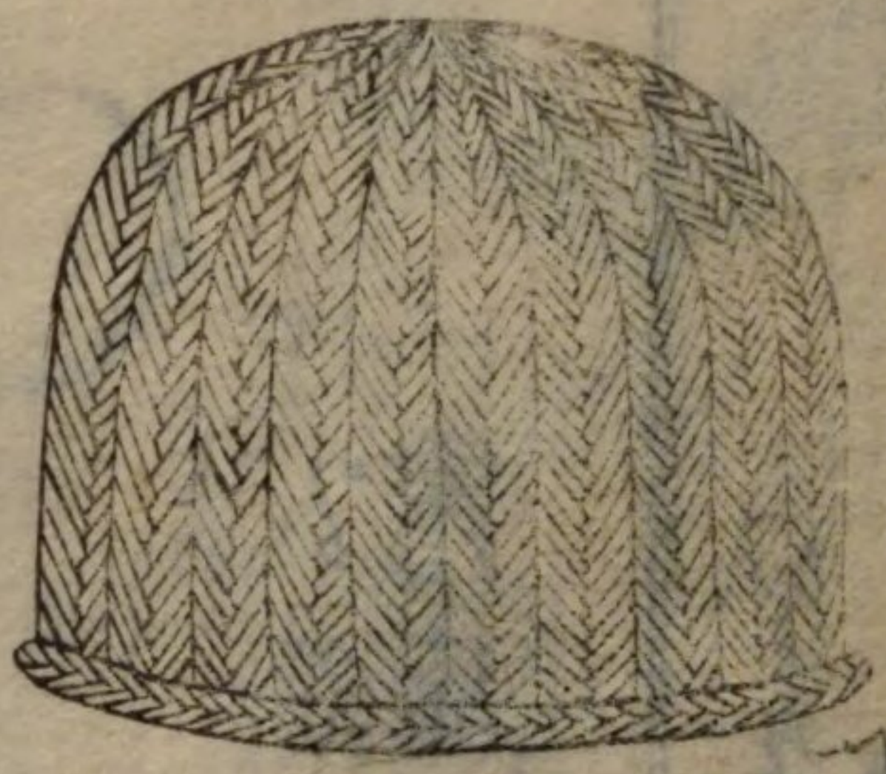
大小

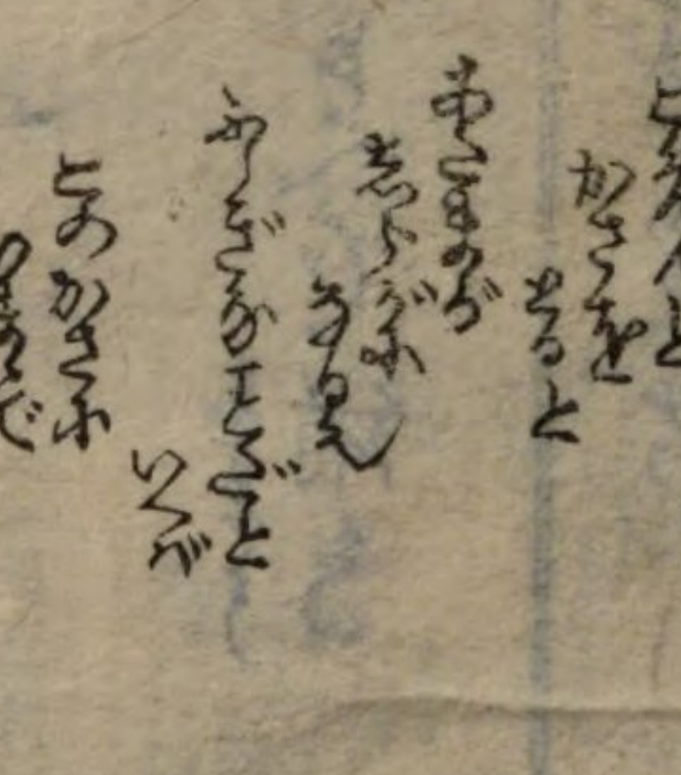
唐冠（とうかむり）



目かゞみ（めかがみ）

杖 つゑ





桶 おけ

「てんびんぼうのさえくせぶふ
ぜめのとうぐはける
ぜんぶ十二文やどうりはける
ぜんぶぜめのとうぐ十二文有

よろひ鎧

「おっとのあさ
ねぼうだよ
ゆくとた
まごはくよ
いろろる
おっとの
おまもり
さねと
やまとる
とんやちやだんを
とたてふ
人をまちこびれど
おっとも
かへらず
「こりゃまろと
あさまえ
ぐらまり
そろる
ものも
そうこうやそのさま
とびをそそあ用心く

立ぶすー紙ぐまかごより

名ぶし

かぶとのいれの上もの

「おっとるとかこれが
あぶうだうけ
これはどうこと
りのごと
ようく
かへんずて
入るとと
それぶすーふ
そよのせびよろさま
そしてだれも
ろぶしとそ
おいはまんざ

「おっとさまはそんざ
ゆうきんをはりこめ
ようきんをはりこめ
それこれを
ようきんをはりこめ
ようきんをはりこめ

「はかんねの
ふんどしの
天ぐ
ざうしそ
はけやをも
いうやも
きこえる
さうしが
くろくろ
おごーどうさく

大吉利市
多福多福
幸福万福

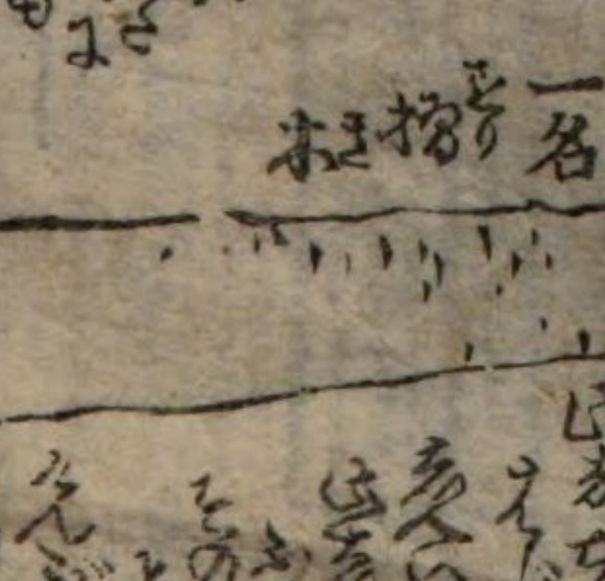
我敵斜
表出さう
けやう吉

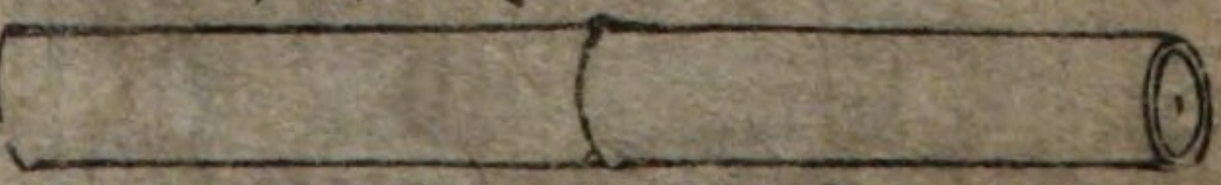
「ぐきまの
ぐんまさんぶ
ぐ
ぐきまの
ぐんまさんぶ
ぐ

かぶとの天一名
天狗の先ん
尺八
一名ふえ吹
一名ふえ吹

三ゆくりくこ
二ゆくりくこ
かりそめ
ふしのまろ
ねやくこ
九ぞくこ
ねやくこ
八ぞくこ

一名ふえ吹
笛





えんぎり
半切

おまつのところの
らうぜき
ちうちうと
入
まつさ
が
ゐるげな
えんだん
ちやぢんを
いつてまつぶ
をぞらくと
いつてまつなさいと
ひとつの
ようぢんと
かやうち
とそのの

ふんどし
一名ふん
ふんどおぼれと
かぶつてふ
さあハテ
やきふりふ
こうえ
いやう
そう

これはちんぞさえ
ちんぞ
とまろう
とのめ
ん
ちふ
ゆるをを
おかしなと
ちやまのの
だんか

こらえさうさうぶおいてうう
ろ丑ぢでまうとうをし
ひぢりめんよりうらのひ
かされざそのもつそのあ
ゆひげまろゆうだとやくうたうを
これはちんぞさんかおいそれのごうそう

# 藏衣

## 常夜道具

上下

上下

上ハおりそのほかてぬぐひさらしもめんのたぐひ

下ハおりそのほかあくる日もちゐるべきもの

かりぎぬ

狩衣 一名まんぢゅう

これぞおぐるまをかりてくるまやにとめおくときのきぬ

ここらのをかしきやつばらかなとてそろひのきぬをきてうちつれてゆくありさまいとおもしろし

ちやうちんのひもとりてまゐるなどいふこともあり

かりぎぬのひもとりてまゐるなどいふこともあり

なりひらの女中がさわれいまうよおさんまあよつてござりまし

千石之井勢曰如學
年屋百家八列風
標標標標標標標標

相行年十六余
子三月
[illegible]
梧冈之原
久而安厝
歲作

余年十六
[illegible]
[illegible]
[illegible]

Bayerische
Staatsbibliothek
München

聖雨文庫

L. Jap. J 410 C1

# 樂屋主人飯茶番

歌櫻川慈悲成

國直画作

BSB Bayerische StaatsBibliothek
MDZ Münchener DigitalisierungsZentrum Digitale Bibliothek

Sakuragawa Jihinari

Chaban no gakuya

Edo Bunka 13 [1816]
L.jap. I 410,1-2
urn:nbn:de:bvb:12-bsb11166405-5